

豊岡市アーティスト・クリエイター移住等促進戦略 ～「小さな世界都市—Local & Global City」の実現に向けて～

1 背景

(1) 基本構想における文化芸術の位置づけ

ア 市の基本構想は、目標とする「小さな世界都市—Local & Global City」の条件の一つとして「多様性を受け入れ、支えあうリベラルな気風がまちに満ちている」ことを挙げている。ここでは、文化芸術活動に取り組む人々を大らかに受け入れていくことも想定している。

イ 基本構想は、「小さな世界都市—Local & Global City」の条件の一つとして、「優れた芸術文化が創造され、人々が楽しんでいる」ことも挙げている。その実現のためには、文化芸術活動に取り組む人々を積極的に受け入れていくことが不可欠である。

(2) 地方創生総合戦略における文化芸術の位置づけ

ア 2015年国勢調査による本市の若者回復率（10代の転出により失われる人口の20代の転入による回復率）は、39.5%にとどまっている。

イ 豊岡市地方創生総合戦略では、その主な要因が「地方は貧しくてつまらない」という非常に強いイメージにあると分析し、そのイメージを壊すために、「豊岡に暮らすことの価値」を高め、創造することを戦略の柱の一つに据えている。

ウ 多様性を受け入れるまちづくりや優れた文化芸術を創造し、人々がそれを楽しむまちづくりは、「豊岡に暮らすことの価値」を高め、創造する有力な戦略となる。また、アーティストやクリエイター等がまちづくりに関わることによってまちのセンスが良くなり、まちの価値を高めることが期待される。

エ 豊岡市文化芸術振興計画アンケート（平成28年9、10月）において、高校生に対し、文化的環境の満足度別に今後の豊岡市での居住意向調査を実施した。その結果、豊岡市の文化的環境に満足している高校生は、今後の居住意向が強いことが判明している。

○ 豊岡市の文化芸術に関するアンケート調査結果

今後の豊岡市での居住意向のある高校生の割合

- ・「豊岡市の文化芸術が盛んだと思う」と回答した高校生のうち 38.2%
- ・「 〃 どちらかといえば盛んだと思う」と回答した高校生のうち 31.8%
- ・「 〃 盛んだとどちらかといえば思わない」と回答した高校生のうち 17.1%
- ・「 〃 盛んだと思わない」と回答した高校生のうち 13.1%

(3) アーティスト・クリエイター等によってもたらされたまちの変化

ア 城崎国際アートセンターに世界的なアーティストが集まるとともに、平田オリザ氏のリーダーシップにより、コミュニケーション教育が全国でも先導的な取り組みとしてスタートし、子どもたちがアーティストや外国人と自然にふれあ

うことができるようになった。

イ 幅 允孝氏とのつながりにより、NPO 法人「本と温泉」が設立され、城崎でしか買えない一流作家の作品が出版されるとともに、城崎文芸館が生まれ変わった。また、まちの旅館や土産物店に本が並び、市民やまちを訪れた人が文学に触れる機会が増えた。

ウ 片岡愛之助氏とのつながりにより、永楽館歌舞伎の賑わいが生まれ、歌舞伎を楽しむ市民が増えるとともに、歌舞伎が出石の「まちの顔」になった。

市民は、アーティスト・クリエイター等が新たな価値を生み出したり、地域の価値や資源を再編集して輝かす光景を目の当たりにし、アーティスト・クリエイター等との協働による文化芸術のまちづくりの可能性を感じつつある。

(4) 専門職大学の設置準備の進展

ア 現在、兵庫県において、観光と文化・芸術を柱とする専門職大学の設置準備が進められている。

イ 専門職大学が開学すれば、文化・芸術に携わる人が移住し又は頻繁に来訪し、豊岡のまちづくりに関わるが見込まれる。

(5) 劇団「青年団」の移転

ア 豊岡市芸術文化参与である平田オリザ氏が、自身と自身が主宰する劇団「青年団」の江原駅周辺への移住・移転を表明された（2017年8月27日豊岡市文化芸術シンポジウムにて）。

イ 劇団「青年団」の移転が実現すれば、文化芸術の新たな創造拠点が誕生するだけでなく、公演時の集客や観光客の立寄りによる経済効果、劇団員等の移住や頻繁な来訪による「面白いまち」への変化、豊岡市の認知度やイメージの向上、情報発信力の高まり等が期待できる。

(6) 他地域の事例

ア 尾道市では、主として建築系のアーティスト・クリエイターがまちづくりに関わり、木造の古い建物を活かしてセンスのいい小売店、飲食店、宿泊施設などをつくっている。また、尾道市立大学（文化芸術学部）等と連携して芸術文化のまちづくりを進め、観光客を引きつけるとともに、UIターンを増加させている。

イ 横浜市では、アーティスト・クリエイターが関内地域の歴史的建造物を利用して創造的で面白いまちづくりに取り組むことにより、横浜らしい歴史的建造物が立ち並ぶ景観を維持し、市民の愛着を高めるとともに、観光客を呼び寄せている。

ウ 新潟市では、水と土の芸術祭をきっかけにアーティストと市民がつながり、市民自らが創造的な芸術活動に取り組んでいる。

また、芸術祭のスタッフとして各地から集まったアーティストが、芸術祭終了後も新潟市に定住している。

エ 相模原市の藤野地域では、アーティストを積極的に呼び込むことにより、多様な人や物事を受け入れるリベラルな気風が生まれ、多くのクリエイティブな人材を呼び込んでいる。

オ 南砺市の利賀地域では、劇団SCOT（早稲田小劇場の移転により設立）による国内外での公演や毎年夏に開催される国際演劇祭により、「世界の利賀」としての認知が高まっている。また、世界と直接つながることにより、住民が地域に誇りを感じている。

カ 小豆島町では、瀬戸内国際芸術祭への来場をきっかけとした移住者が増加し、その移住者によるレストラン、小売店などセンスの良い場所が生まれ、さらなる移住者を呼び込んでいる。

キ 別府市では、NPO法人の代表者が核となり、芸術祭で若手アーティストと国際的アーティストとのつながりづくり等を行うとともに、低廉な家賃で創作場所と住居を提供することにより、若くてセンスがいいアーティスト・クリエイターが集まっている。

これら地域の事例では、アーティスト・クリエイターの移住によってまちが変化するまでに、10年から20年程度の時間を要している。

2 目的

アーティスト・クリエイター等の移住・移転を促進し、①多様性を受け入れ、支えあうリベラルなまちづくり、②優れた文化芸術を創造し、楽しむまちづくり、及び③センスのいいまちづくりを進めることによって、「小さな世界都市—Local & Global City」の実現に資する。

3 取組方針

- (1) 豊岡市の資源・強み・経験を活かして取り組む。
- (2) 小さな成功事例をつくり、可視化し、市内に広げていく。
- (3) 持続可能な手法により、戦略的・長期的に取り組む。
- (4) 若者にチャレンジの機会を提供する。
- (5) 関係人口づくりを進める。

4 まち（市民）の変化の状況

(1) 黎明期

- ・ 市民が文化芸術に触れ、そのおもしろさや価値に気づき始めている。
- ・ 市民が文化芸術を通じて、アーティストやクリエイター等を理解しようとし始めている。
- ・ 市民がアーティストやクリエイター等を受け入れ始めている。

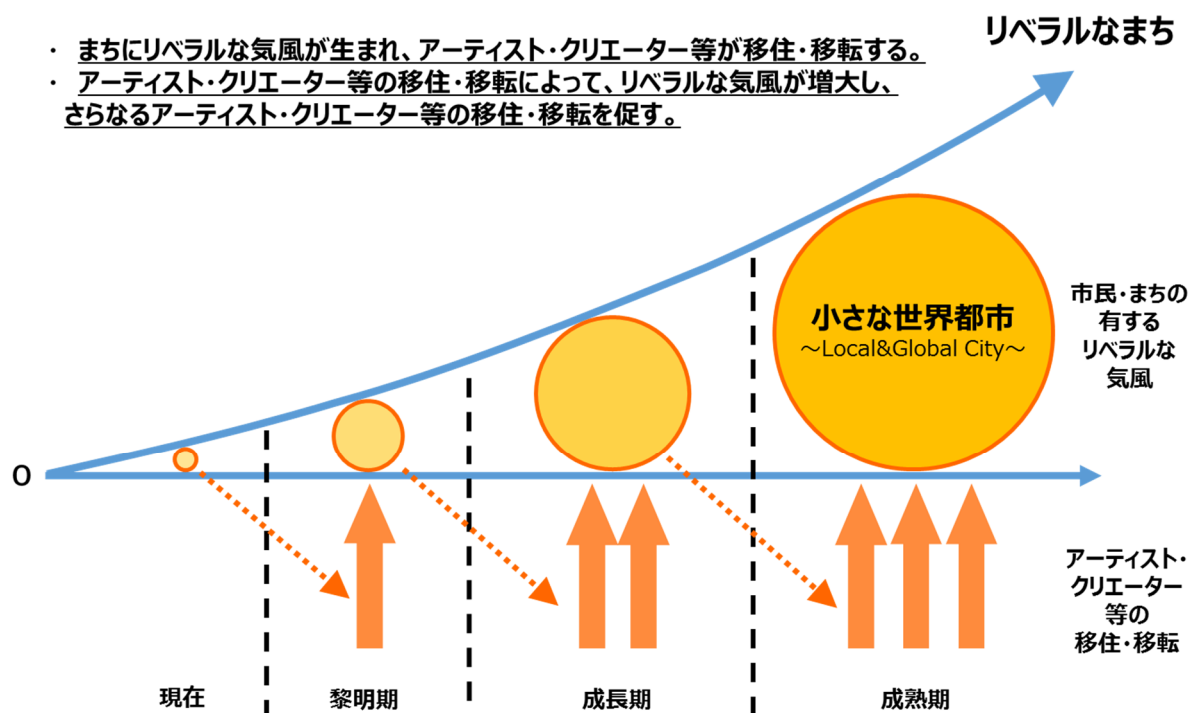
(2) 成長期

- ・ アーティストやクリエイター等の影響を受け、新しいことにチャレンジする市民が増えている。
- ・ アーティストやクリエイター等が生み出す新しい価値を楽しむ市民が増えている。
- ・ まちが変わり始めたこと（(1)の状況）が市外のアーティスト・クリエイター等に届き、市内への移住が増え始めている。

(3) 成熟期

- ・ 市民が、新しい価値や楽しみを自ら創り出している。
- ・ 市民が、違う考えを持つ人を理解し、受け入れている。
- ・ アーティストやクリエイター等がまちの一員になっている。
- ・ 文化芸術によるまちづくりが評価され、世界中から人々が集まっている。
- ・ アートを活かした製品やサービスが新たに生み出されている。

【概念図】アーティスト・クリエイターの移住等によるリベラルな気風の増大



5 戦略の体系と事業

(1) 戦略体系図

| 戦略目的 | KPI |
|---|--------------------|
| アーティスト・クリエイター等が市内に住んでいる | 移住者数5人/年(2021年～) |
| 主要手段A アーティスト・クリエイター等が創作しやすい環境が整っている | 事業 |
| 01 創作の場が確保されている | ア 文化芸術に関する国等の補助金活用 |
| | イ ワンストップ相談窓口 |
| | ウ 空き店舗等開業支援補助金 |
| 02 創作活動を支援する機能が整っている | エ コーディネート機能設置の検討 |
| 03 創作を発表する場(機会)が整っている | エ コーディネート機能設置の検討 |
| | オ 国際的な芸術祭の開催支援 |
| 主要手段B アーティスト・クリエイター等が生活しやすい環境が整っている | 事業 |
| 01 暮らし方に応じた住まいが確保されている | イ ワンストップ相談窓口 |
| | カ 定住促進事業補助金 |
| | キ 従業員等移住促進補助金の検討 |
| 02 創作活動しながら働ける環境が整っている | イ ワンストップ相談窓口 |
| | ク 企業、団体への作品等の紹介 |
| | ケ 人材シェアリング組織の検討 |
| 主要手段C 豊岡市の文化芸術の取組みが市外のアーティスト・クリエイター等に知られている | 事業 |
| 01 市外のアーティスト・クリエイター等に情報が届いている | イ ワンストップ相談窓口 |
| | コ 市の保有するネットワークの活用 |
| | サ 芸大・美大等との連携の検討 |
| | シ 文化と教育の先端自治体連合 |
| 02 文化芸術に関し世界的な事業が行われている | オ 国際的な芸術祭の開催支援 |

(2) 予定している事業等の概要

ア 文化芸術に関する国等の補助金活用

文化芸術施設を整備する事業に対し、可能な限り国等の支援制度を活用し、支援する。

イ ワンストップ相談窓口〈既存〉

創作活動をするために市内に移住しようとする者に寄り添って、住居、仕事、アルバイト等市内での生活・創作に必要な情報を提供する。

ウ 空き店舗等開業支援補助金〈既存〉

市内の空き店舗等を活用して店舗を開業する者に対し、出店に必要な店舗改修費、販売促進費に係る補助金を交付する。

エ コーディネート機能設置の検討〈新規〉

市内に居住する若手アーティスト・クリエイター等の創作、出展、市内での活動等を支援する機能の設置を検討する。

オ 国際的な芸術祭の開催支援〈新規〉

豊岡で世界とつながる芸術祭の開催を支援し、文化芸術に関する市民の関心向上、豊岡の文化芸術によるまちづくりに関する市外のアーティスト・クリエイターの認知向上、及び芸術祭にスタッフ等として関わることをきっかけとしたアーティスト・クリエイター等の移住を支援する。

カ 定住促進事業補助金〈既存〉

5年以上定住する意思のある移住者が移住サイト掲載住宅を購入又は賃借して改修、家財道具処分等をする場合に、補助金を交付する。

キ 従業員等移住促進補助金制度の検討〈新規〉

事業所等の移転の伴い従業員等が豊岡市に定住を目的として移住する場合に、移住する従業員等の人数に応じて支援する制度を検討中である。制度を創設する場合、劇団員等についても適用する。

ク 企業、団体への作品等の紹介〈新規〉

豊岡で活動する優れたアーティスト・クリエイター等の作品、活動等を事業者、公共団体等に紹介し、創作活動の拡大再生産を図る。

ケ 人材シェアリング組織設置の検討〈新規〉

アーティスト・クリエイター等が市内企業で活用されるための組織・プラットフォーム等の形成を検討する。

コ 市の保有するネットワークの活用〈既存〉

市とつながりのあるアーティスト・クリエイター等との関係を維持しつつ、新たなネットワークを広げ、情報を届ける。

サ 芸大・美大等との連携の検討〈新規〉

豊岡市の文化芸術の取組み（国際的な芸術祭開催など将来的な計画等を含む。）について、芸大・美大等との連携を検討する。

シ 文化と教育の先端自治体連合〈新規〉

豊岡市、北海道東川町、岡山県奈義町など文化と教育に関し先進的な取組みを行う市町が連携し、それぞれの取組みを学び合うとともに、共同で情報を届ける。

【概念図】アーティスト・クリエイター・移住等促進戦略 ～「小さな世界都市ーLocal&Global City」の実現に向けて～

